地質学雑誌　第127巻　第9号（通巻1512号）付録　令和3年9月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.24 No.9 September 2021

一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2022 年総会

会長（代表理事） 磯﨑行雄（東京大学）

副会長 佐々木 和彦（応用地質（株））
平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）

常務理事 中澤　努（産業技術総合研究所）
副常務理事 岡田　誠（茨城大学）
執行理事 ウォリス サイモン（東京大学）
緒方信一（中央開発（株））
大藤　茂（富山大学）
狩野彰宏（東京大学）
亀高正男（(株) ダイヤコンサルタント）
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
星　博幸（愛知教育大）
松田達生（工学気象研究所）
矢部　淳（国立科学博）

理　事 上松佐知子（筑波大学）
芦　寿一郎（東京大学）
天野一男（東京大学）
安藤寿男（茨城大学）
内野隆之（産総研）
尾上哲治（九州大学）
笠間友博（箱根ジオミュージアム）
亀尾浩司（千葉大学）
亀田　純（北海道大学）
川端清司（大阪市立自然史博）
北村有迅（鹿児島大学）
清川昌一（九州大学）
後藤和久（東京大学）
小松原純子（産総研）
齋藤　眞（産総研）
杉田律子（科学警察研）
竹下　徹（北海道大学）
内藤一樹（産総研）
納谷友規（産総研）
奈良正和（高知大学）
西　弘嗣（東北大学）
根本直樹（弘前大学）
野田　篤（産総研）
早坂康隆（広島大学）
藤井正博（応用地質（株））
細矢卓志（中央開発（株））
保柳康一（信州大学）
松田博貴（熊本大学）
三田村宗樹（大阪市大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

監 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2024 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ htttp://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.24 No.9 September 2021

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

一般社団法人日本地質学会2022年度代議員および役員選挙について……2

2022年度代議員および役員選挙実施要領/代議員選挙にかかわる，正・副会長候補者の意向調査について/選挙スケジュール/代議員立候補届（書式）/選挙規則/選挙細則/選挙管理委員会規則

2022年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について……10

各賞選考規則/各賞選考委員会規則/2022年度日本地質学会の新しい表彰体系：変更の要点について

各賞・研究助成……14

2022年度笹川科学研究助成募集/山田科学振興財団2022年度海外研究援助

公募……14

名古屋大学大学院環境学研究科・准教授公募/横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境と情報部門准教授または講師公募

紹介…15

環境保全のための地下水水質化学－地球化学，地下水および汚染－中川　啓監訳（竹内真司）

CALENDAR……16

表紙紹介……16

第12回惑星地球フォトコンテスト：入選「カルスト台地」（百崎礼治）

院生コーナー……17

日本古生物学会2021年年会（オンライン）参加報告（河野秀晴）

巻末　入会申込書

新型コロナウィルス感染拡大防止のため，**学会事務局は現在も出勤日数・人数を調整しながらテレワークを実施しております．**営業時間は通常通り，電話対応も再開しておりますが，事務局へのご連絡・お問い合わせはできるだけメールでお送りください．ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します．

事務局営業カレンダー　営業時間：9:30-18:00　お休み

9月 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

9/4-6：学術大会，9/24：振替

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

告　示

一般社団法人日本地質学会
2022 年度代議員および役員選挙について

一般社団法人日本地質学会定款ならびに選挙規則・選挙細則に基づいて，代議員および役員（理事）選挙を実施いたします．選挙規則類を掲載するとともに，選挙実施の要点について以下に記します．また，選挙規則等を掲載しましたのでご確認ください．

なお，会長（法人の代表）並びに副会長は，法人法に基づき代議員（社員）の中から選出された理事によって構成される理事会において，理事の中から選出します．ただし，理事会からの委託により，当選挙管理委員会が正・副会長への立候補の意思のある方について，代議員選挙と併せて会員の意向調査を実施いたします．このことについては，理事会からの案内（別記：代議員選挙にかかわる，正・副会長候補者の意向調査について）をご覧ください．

1．今回，選挙管理委員会が実施する選挙は，正会員の直接選挙による代議員の選出と，その代議員の互選による理事の選挙です．
2．代議員選挙の選挙人および被選挙人は，一般社団法人日本地質学会の正会員（全個人会員）に限ります．正会員は，１人１個の選挙権があります．
3．代議員および理事の選挙は２年ごとに実施し，全代議員（社員）および役員（理事）を選出（改選）します．
4．代議員および理事の任期は２年，今回選出される方は，2022 年度総会で選任され，2024 年度の総会までが任期となります．
5．代議員の選挙においては，全国区と地方支部区があります．地方支部区については，各自の所属している支部区についてのみ，立候補ならびに投票の権利があります．全国区・地方支部区とも立候補者数が定員を超えない場合は，無投票当選といたします．
6．地方支部区選出理事の選出方法は，地方支部区ごとに当該支部区選出代議員により支部代表理事を１名選出する選挙を行います．詳細は，選挙実施要領４項 2）および選挙規則第５条３項ならびに選挙細則 13 条をご参照ください．

その他，選挙の概要については以下の実施要領をご覧ください．また，投票に関する事務的なことや投票の仕方などにつきましては，投票用紙発送の際にお知らせいたします．

2021 年 9 月 21 日
一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会
委員長　飛田健二
委　員　尾崎正紀・堤　之恭・永冶方敬・藤﨑　渉

2022 年度代議員および役員選挙実施要領

1．代議員選挙日程（選挙人，被選挙人とも正会員）

1）立候補受付期間　　10 月 21 日（木）～ 11 月 18 日（木）
　＊最終日 18 時必着
2）選挙広報・投票用紙の発送　　12 月 10 日（金）頃までに届くよう郵送します．
3）選挙活動期間　　12 月 13 日（月）～ 12 月 31 日（金）
4）投票期間　　12 月 13 日（月）～ 2022 年 1 月 10 日（月）
　＊最終日消印有効
5）開票日時　　1 月 14 日（金）10 時より
　学会事務所にて立会人のもと，選挙管理委員会が行う．
6）選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにホームページ，メルマガ，News 誌に掲載する．

2．理事の選挙日程（選挙人，被選挙人とも代議員）

1）立候補受付期間　　1 月 22 日（土）～ 2 月 7 日（月）
　＊最終日 18 時必着
2）選挙広報・投票用紙の発送　　2 月 18 日（金）頃までに届くよう郵送します．
3）選挙活動期間　　2 月 21 日（月）～ 2 月 27 日（日）
4）投票期間　　2 月 21 日（月）～ 3 月 10 日（木）
　＊最終日消印有効
5）開票日時　　3 月 15 日（火）15 時より　予定
6）選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにホームページ，メルマガ，News 誌に掲載する．

3．代議員の立候補

1）代議員の定数は全国区 100 名・地方支部区 100 名，総数 200 名です．地方支部区は得票順，全国区は得票順および所定の階層別定員充足数を考慮して選出します．
2）各地方支部区の定数は，2021 年 8 月 21 日の支部会員数により 100 名を比例配分しました．（　）の中の数が各支部の定数です．

北海道地方区　(4) 名（北海道）
東北地方区　　(7) 名（青森，秋田，岩手，山形，宮城，福島）
関東地方区　　(43) 名（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
中部地方区　　(17) 名（新潟，長野，山梨，静岡，富山，石川，福井，岐阜，愛知）
近畿地方区　　(11) 名（滋賀，奈良，京都，三重，大阪，

和歌山，兵庫）
四国地方区　（4）名（徳島，香川，高知，愛媛）
西日本地方区　（14）名（岡山，広島，鳥取，島根，山口，福岡，佐賀，熊本，長崎，大分，宮崎，鹿児島，沖縄）

3）代議員地方支部区へ立候補する方は，登録住所の県別により該当する地方支部区に立候補してください．全国区は制限がありませんので，どの地域からでも出ることができます．

4．理事の立候補

1）理事の定員は50名です．理事の選挙人および被選挙人は，当該選挙で選出された代議員です．

2）地方支部区代表理事：7名
50名のうち7名は，地方支部区代表理事とします．選挙人および被選挙人は当該地方支部区選出の代議員とし，支部区ごとに選挙を行って，各支部1名ずつの支部代表理事を選出します．

3）全国区選出理事：43名
被選挙人は全国区選出の代議員とし，選挙人は全国区および地方区選出の全代議員による選挙を行い，得票順および所定の階層別定員充足数を考慮して選出します．

5．立候補の届出について

1）立候補締切日は以下のとおり，いずれも18時必着とします．
代議員　　2021年11月18日（木）
理　事　　2022年2月7日（月）

2）立候補届の書式
代議員，理事いずれも立候補届は所定の書式（別途掲載）により，選挙管理委員会あてに届け出てください（持参不可）．各立候補届は選挙細則（第6条2項，第13条2項）に基づき，次の方法で届け出てください．
代議員立候補届　原本を郵送またはE-mailによる添付文書
理事立候補届　E-mailによる添付文書
書式は，Webサイトからダウンロードすることもできます．（http://www.geosociety.jp/）
立候補は自薦および他薦のいずれも可とします．他薦の場合は，「候補者推薦承諾書」を添付してください．
＜郵送の宛名＞
〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル
一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会
＜E-mail＞　選挙管理委員会　main@geosociety.jp
件名：選挙立候補届

3）立候補届受領書の発行
立候補届を受け取りましたらE-mailまたは郵便はがきにより，立候補者に受領書を発行します．

4）正・副会長への立候補意思表明，マニフェストの提出
代議員立候補者で，代議員，理事と選出されたのち，正・副会長に立候補する意思のある方は，会員による意向調査の資料として，代議員立候補届に加えて，完全版下用マニフェストを作成し添付してください．

＜マニフェストの作成について＞
A4判1ページ（タテ形）とし，内容の構成は自由です．配布用はモノクロ印刷のみ，Webサイトにはカラーでの掲載もできます．版下はモノクロとカラーの両方の提出が可能です．ただし，モノクロとカラーの違いによる表現の変化・変更は許容の範囲としますが，文言等の表記内容はモノクロ版，カラー版とも同一とし，変更は認めません．また，学会の公式ロゴおよび出版物等は，マニフェストに使用しないでください．

以上

会員各位

代議員選挙にかかわる，正・副会長候補者の意向調査について

一般社団法人日本地質学会理事会

一般社団法人日本地質学会の2022年度代議員ならびに役員選挙について，選挙管理委員会による告示が本号に掲載されました．会員各位におかれましては，地質学会の運営に対し十分に関心をお持ちいただき，積極的にご参加とご協力をいただきますようお願い申しあげます．

さて，法人の代表理事は，理事会において理事の中から選出するということが，法律によって定められ，本学会におきましても定款上はそのように定めております．

しかしながら，これまでの長い歴史と法人化を検討する中での会員の意向を踏まえ，会長および会長の補佐役である副会長の選出においては，会員の意向調査を実施しております．会員の意向が直接，選出につながるものではありませんが，理事会として正副会長を選出する際の，重要な参考にさせていただきます．具体的には，定時に実施される選挙におきまして，全国区代議員（および理事）の立候補者の中で，正・副会長への立候補の意思を示した方には，会員に向けてのマニフェストを公表していただき，それによって候補者に対する会員の意向を調査するというものです．

なお，この意向調査については，選挙管理委員会が管理する代議員選挙とは手続きを異にするものではありますが，学会の代表者の選出にかかわって，全会員の意向を伺うということの性質上，その公正さを確保するためにも，選挙管理委員会の下で「意向調査」として実施いたします．つきましては，本号掲載の「選挙告示」にありますように，本意向調査を代議員選挙と同時に実施いたしますので，なにとぞよろしくご理解とご協力のほど，お願い申し上げます．

一般社団法人日本地質学会選挙

Ⅰ. 選挙管理委員会によって行われる選挙

	選挙	任期	選出方法	定員	選挙人	被選挙人	階層指定の定員数		候補者が定員どおりか定員未満のとき
1	代議員選挙　地方区	2年	投票	100	正会員	正会員	なし		投票なし
	代議員選挙　全国区	2年	投票	100	正会員	正会員	大学（付属博物館）	12	投票なし
	定員合計　200名						小中高（教育センター）	12	
							官公庁（独法・博物館）	12	
	＊【正・副会長候補者の意向投票】						会社（財・社法人）	12	
	予め立候補の意思表示をし、マニュフェストを提出した代議員候補者						院生（研究生）	4	
							上記指定以外で得票順	48	
2	理事選挙	2年	投票	7	地方支部区当選代議員	地方支部区当選代議員	なし、各地方支部区より1名	7	投票なし
	定員合計　50名		投票	43	当選全代議員	全国区選出代議員	大学（付属博物館）	6	投票なし
						（正・副会長候補意向表明者も含まれる）＊	小中高（教育センター）	6	
							官公庁（独法・博物館）	6	
							会社（財・社法人）	6	
							院生（研究生）	2	
							得票順	17	
3	監事選挙	4年	投票	1	代議員	正会員	なし		投票なし
	定員合計　2名	4年	指定	1	理事会の指名推薦	非会員	なし		12月理事会で推薦候補者決定、選管に届出

Ⅱ. 理事の互選によって行われる選挙

1	会長選挙	2年	承認又は投票	1	当選理事全員	意思表明した理事	なし		代議員・理事選挙の意向投票を尊重
	副会長選挙	2年		2					
2	執行理事選挙	2年	投票	15	当選理事全員	会長・副会長選出者以外の理事	なし		投票なし
3	理事会正・副議長	1年	投票	2	当選理事全員	上記選出者以外の理事	なし		投票なし

2022年度代議員・役員選挙スケジュール

2021年9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木						
																					選挙告示															
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
																					代議員立候補届け期間 10月21日 ～ 11月18日															
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火						
	代議員立候補届け期間 10月21日 ～ 11月18日																							委員会 15時～												
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金					
								投票用紙送付予定					選挙活動期間 12月13日 ～ 12月31日																							
													代議員選挙投票期間 12月13日 ～ 2022年1月10日																							
2022年1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月					
	代議員選挙投票期間 12月13日 ～ 2022年1月10日													開票 委員会 10時～						選挙告示		理事立候補届け期間 2022年1月22日 ～ 2月7日												
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28								
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月								
	理事立候補届け期間 2022年1月22日 ～ 2月7日									委員会 14時～						投票用紙送付予定					選挙活動期間 2月21日 ～ 2月27日														
																					理事選挙投票期間															
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木					
	理事選挙投票期間 2月21日 ～ 3月10日														開票 委員会 15時～																					

◎E-mail送付可，郵送の場合はA4判（タテ）の大きさでご提出下さい．記入枠は適宜広げてください．

一般社団法人日本地質学会　代議員立候補届け

※　全項目を必ず記入してください．　　提出日　　年　　月　　日

立候補者氏名					E-mail　Address
立候補の区分		全 国 区		地方支部区	＊全国区，地方支部区のどちらか一方を選び，左欄に○を記入して下さい．
所属支部区：支部名	支部名：				＊地方支部区の方は，自分の所属支部を左欄に記入して下さい． （北海道　東北　関東　中部　近畿　四国　西日本）
自薦・他薦の別		自薦		他薦	＊自薦，他薦いずれか一方の左欄に○を記入して下さい．
他薦：推薦者氏名	＊他薦の場合のみ,推薦者氏名を記入して下さい．				
立候補者所属機関	＊所属先がない場合は「なし」としてください．				
立候補者所属階層	階層名：				＊該当する所属階層を左欄に記入して下さい． （大学　小中高　官公庁等　会社　大学院生　その他）
立候補の抱負または推薦文（120文字以内） ＊推薦文の場合は推薦人名を文章の最後につけてください．それも含め全文字数120字以内で書いて下さい．					

会長・副会長への立候補意思表示

※全国区代議員立候補者のうち，正・副会長に立候補する意思のある方は,下記に記入して，マニフェストを添付してください．マニフェストは，モノクロ版およびカラー版のいずれか，または両方を添付することができます．

立候補の意思		会長		副会長	＊立候補意思のあるどちらか一方の左欄に○を記入して下さい．
添付マニフェスト		モノクロ版		カラー版	＊添付するものの左欄に○を記入して下さい．

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

※他薦で立候補される方は推薦承諾書に自署・捺印してください．E-mail の場合はPDFでご提出下さい．この部分のみ別紙でも可．

候 補 者 推 薦 承 諾 書

私は，一般社団法人日本地質学会の代議員候補者となることを承諾いたします．

氏名（自署）　　㊞

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

一般社団法人日本地質学会選挙規則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第 14 条にもとづいて本規則を定める．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

（選挙の実施）
第３条　代議員ならびに役員の選出作業は，別途定める一般社団法人日本地質学会選挙細則（以下選挙細則という）に則り，選挙管理委員会が行う．

（代議員選挙）
第４条　代議員選挙は正会員による無記名投票とし，２年ごとに全定数を改選する．
２　代議員の選挙定員は，地方支部区１００名，全国区１００名からなるものとする．
３　各地方支部区の定員は，選挙告示１ヶ月前の各支部の正会員数に応じて比例配分する．定員確定後に会員の移動等のため届出所属が変わった場合でも，次期選挙までの地方支部区の定員割り当て数は変更しない．また，そのことにより実質減数となる地方支部区の定員補充は行わない．
４　代議員候補者は正会員とし，自薦および本人の承諾書を付帯する他薦とする．立候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．立候補届の提出にあたり，選挙管理委員会は全国区代議員候補者の中で会長・副会長立候補の意図のある正会員の意思表示を，別途定める方法により受け，代議員選挙活動期間開始前に全会員に開示することとする．
５　全国区選出代議員の選出にあたっては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
６　選挙管理委員会は，選挙細則に則り，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
７　選挙管理委員会の報告を受けた総会において代議員選挙結果は確定する．
８　当選後に地方支部区選出代議員の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該代議員の選出地方支部区が変更される．
９　代議員が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出代議員の補充に際しては次点者，全国区選出代議員の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．

（役員選挙）
第５条　役員選挙は理事および監事を選出するものとし，代議員による無記名投票により，理事は２年ごと，監事は 4 年ごとに全定数を改選する．
２　理事の選挙定員は 50 名，監事は２名とする．
３　理事 50 名の選出は，各地方支部区代議員の中からそれぞれ１名を支部区代表理事として選出し，それらを除く数を全国区代議員から選出する．
４　地方支部区選出数を除き，定員にいたる残りの当選理事決定の際は，付表の所属別定員充足数を優先する．
５　理事立候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
６　監事候補者は，理事会が推薦する者と会員からの立候補者を対象とし，理事会および候補者は別途定める参考事項を記した候補者届けを，所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
７　選挙管理委員会は，選挙細則に従って，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
８　選挙管理委員会は，当選者とともに順位を付けた補欠者を決定し，総会に報告する．
９　当選後に地方支部区選出理事の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該理事の選出地方支部区が変更される．
10　理事が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出理事の補充に際しては次点者，全国区選出理事の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．
11　監事のいずれかが任期中に何らかの理由で欠員となった際には，選挙による次点者を繰り上げ，次点者が存在しない場合には理事会が後任を推薦し，総会での承認を得る．

（無投票選挙の指定）
第６条　代議員および役員選挙において，立候補者数が定数を超えない場合には，無投票当選とする．

（得票数同数の取り扱い）
第７条　代議員および役員選挙において，得票数が同数で順位をつける必要がある場合は，くじ引きにより順位を決める．くじ引きの方法は，当該の選挙管理委員会が定めるものとする．

（選挙実施細目）
第８条　定款ならびに本規則に定められたもの以外の，選挙の実施手続き等については，別途定める選挙細則及び選挙管理委員会規則によるものとする．

附則
（発足時の代議員）
2010 年度選挙が実施されるまでの代議員には，任意団体日本地質学会の 2008 年度代議員があたるものとする．
（発効）
・本規則は，2009 年 5 月 17 日から施行する
・2013 年 5 月 18 日　一部改正
・2014 年 5 月 24 日　一部改正
・2017 年 5 月 20 日　一部改正
付表

所属	備考	最低充足数全国区	
		代議員	理事
大学	大学付属博物館を含む	12	6
小中高	教育センター等を含む	12	6
官公庁等	行政法人，博物館等を含む	12	6
会社	社団，財団，NPO 法人等を含む	12	6
大学院生	研究生を含む	4	2

一般社団法人日本地質学会選挙細則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会選挙規則 (以下選挙規則という) 第３条に則り , 代議員ならびに役員選挙の実施手続きを本細則に定める .

（規則の変更）
第２条　この細則の変更は理事会において行い , 総会に報告する .

（選挙管理委員会）
第３条　代議員ならびに役員の選挙は , 定款 , 選挙規則 , 本細則に基づき選挙管理委員会が行う .
２．選挙管理委員会は , 選挙実施概要告示の２カ月以上前までに設置されなければならない .
３．選挙管理委員会は , 別途定める選挙管理委員会規則に基づいて運営されるものとする .

（開票立会人および立ち会い）
第４条　代議員および役員選挙においては , 開票立会人２名を置く . 開票立会人は , 任期中の役員および代議員 , 被選挙人を除いた正会員の中から , 執行理事会が選出する .
２．開票立会人は選挙管理委員会の行う開票作業に , 終始１名以上が立会わなければならない . 開票立会人は当選者の決定を確認し , 選挙管理委員会が作成する総会報告書に記名・捺印するものとする .
３．開票立会人は , 開票作業を行ってはならない . 開票ならびに票の効力判定を注意深く見守り , 疑義が生じたときはただちに選挙管理委員長に申し出て , 疑義の解消をはかる .
４．あらかじめ選挙管理委員会の許可を得た正会員は , 開票に立ち会うことができるものとするが , 開票作業を行ってはならない . 疑義が生じたときはただちに開票立会人に申し出る .

（代議員選挙の告示）
第５条　選挙の実施概要は , 立候補受け付け開始の１か月以上前に , 日本地質学会 News 誌ならびに WEB サイト等を通じて , 会員に告示しなければならない . また , 必要に応じて予備的告示を行うものとする .
２．選挙管理委員会は告示に先立ち , 当該年度の代議員および役員の選挙に関し , 選挙スケジュール , その他必要事項の確認と決定を行い , 当該選挙の実施概要として執行理事会に提示し , 承認を受ける .

（代議員の立候補届および受理）
第６条　代議員に立候補する正会員は , 所定の参考事項を記した立候補届を期日までに選挙管理委員会に提出しなければならない .
２．立候補届等は所定の書式を用い , 郵送または電磁的方法のいずれかによるものとする .
３．立候補届には 1）全国区・地方区の別 ,2）自薦・他薦の別 ,3）立候補者氏名 ,4）所属先 ,5）所属階層 ,6）他薦の場合は推薦者氏名 ,7）立候補の抱負または推薦文 , の参考事項を記すものとする .
４．他薦による立候補者の場合は , 本人の承諾書を添付するものとする .
５．全国区の代議員立候補者のうち , 会長・副会長の立候補の意図があるものは３項に加えてその意思表示を記すものとする . また , 参考書類として所定の書式によるマニフェストを添付しなければならない .
６．立候補届の受付期限内であれば書類の差し替え , 修正は随時できるものとする .

第７条　選挙管理委員会は立候補届の内容および添付書類を確認し , 立候補者本人に受理書を発行する . 届け出内容等に明らかな不備が認められる場合には , 随時その確認と修正を求めることができるものとする .

（代議員立候補者名簿・参考書類の開示）
第８条　選挙管理委員会は速やかに立候補者名簿を作成し , 投票の有無を確定する .
２．立候補者名簿および参考書類は投票用紙とともに正会員に送付し ,WEB サイト ,News 誌においても開示するものとする .

（代議員選挙の投票）
第９条　投票権は , 正会員１名につき１個とし , 投票は所定の投票用紙と封筒を用い定められた期間内に , 郵送により行うものとする .

（選挙活動）
第 10 条　代議員立候補者ならびに選挙管理委員以外の正会員は , 定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる . 選挙活動は公正 , 適切な範囲で行い , 倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない .
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合 , または会員からの訴えがあった場合は , 選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い , 理事会に報告して解決を図る .

（代議員選挙の開票および結果の開示）
第 11 条　選挙管理委員会は投票期間終了後 , 開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い , 選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする .
２．開票結果を総会報告書として作成し , 立候補者にも通知する .WEB サイト ,News 誌においても速やかに開示するものとする .

（役員選挙の告示と開示）
第 12 条　選挙管理委員会は , 代議員選挙の結果に基づく理事と監事の選挙の実施概要を , 当選した全代議員に告示し , WEB サイトにおいても開示するものとする .

（理事の立候補届）
第 13 条　理事選挙は，地方支部区選出理事の場合，被選挙人は当該支部区選出代議員の立候補者とし，選挙人は当該支部区選出の代議員とする．全国区理事の被選挙人は全国区選出代議員の立候補者とし，選挙人は、地方支部区ならびに全国区選出の全代議員とする.
２．立候補届は所定の書式を用い ,1）自薦・他薦の別 ,2）立候補者氏名 ,3）所属先 ,4）他薦の場合は推薦者氏名 ,5）立候補の抱負または推薦文を記し , 電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない .
３．他薦による立候補者の場合は , 本人の承諾書を添付するものとする .

（監事の立候補届）
第 14 条　監事の選挙は , 選挙規則第５条第６項に従い , 当選代議員以外の正会員から１名 , 理事会推薦者（会員外）から１名を選出するものとする .

２．立候補届は所定の書式を用い,1）自薦・他薦の別,2）立候補者氏名,3）所属先,4）推薦者氏名,6）立候補の抱負または推薦文を記し,電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない.
３．理事会推薦候補者および他薦の場合は,本人の承諾書を添付するものとする.

（役員選挙立候補届の受理と立候補者名簿の開示）
第15条　選挙管理委員会は立候補届の内容を確認し,立候補者本人に受理書を発行する.届け出内容に明らかな不備が認められる場合には,随時その確認と修正を求めることができるものとする.

第16条　選挙管理委員会は立候補受け付け終了後,速やかに立候補者名簿を作成し投票用紙とともに,当選した全代議員に送付する.立候補者名簿はWebサイト,News誌においても開示するものとする.

（役員選挙の投票および選挙活動）
第17条　投票権は,代議員1名につき1個とし,投票は所定の投票用紙と封筒を用い,定められた期間内に郵送により行うものとする.

第18条　役員立候補者,代議員ならびに選挙管理委員以外の代議員および正会員は,定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる.選挙活動は公正,適切な範囲で行い,倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない.
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合,または会員からの訴えがあった場合は,選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い,理事会に報告して解決を図る.

（役員選挙の開票および結果の開示）
第19条　選挙管理委員会は投票期間終了後,開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い,選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする.
２．開票結果を総会報告書として作成し,立候補者にも通知する.Webサイト,News誌においても速やかに開示するものとする.

（選挙に対する異議申し立て）
第20条　代議員および役員選挙の結果に対する,会員からの異議申し立ては,選挙管理委員会に対して行う.
２．選挙管理委員会は異議申し立て内容を確認,調査し,申立人との間で解決を図る.申立人が納得しない場合は,当該案件を総会の報告事項に加え,総会の決議に従うものとする.

（選挙結果の承認）
第21条　選挙管理委員会は,選挙結果を総会に報告し,代議員および役員選任の承認を受けなければならない.

（代議員および役員の欠員）
第22条　何らかの理由により,代議員および役員の任期中に欠員が生じた場合でも,選挙規則第5条第9号,10号,11号に基づき補充選挙は行わないものとする.

（附則）
本細則は2009年6月30日から施行する.
2012年12月1日　一部改正.
2014年4月5日　一部改正

一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会規則

（目的・業務）
第1条　選挙管理委員会は，一般社団法人日本地質学会定款14条および第32条に定められた代議員ならび役員を選出するため，事務手続きの一切を選挙規則および選挙細則に基づいて公明正大に執り行う.

第2条　選挙管理委員会は，代議員および役員選挙の結果をWebサイトならびにNews誌で開示するとともに，総会に報告する.

（委員会の構成）
第3条　選挙管理委員は会長，副会長，理事，監事および代議員を除く正会員のなかから理事会が選出し，会長が委嘱する5名の委員により構成される.
２　委員長ならびに委員長代理は委員の互選によって選出され，委員長は選挙管理委員会を代表する.

（委員の任期）
第4条　委員の任期は総会への報告完了の日までとし，再任はさまたげない.
２　選挙管理委員は任期中，投票を除いて，代議員および役員選挙への立候補および立候補者の推薦，選挙活動をおこなうことができない.

（選管補助要員）
第5条　選挙管理委員長は，事務局職員を選挙管理委員会の補助要員に任命し，業務の一部を委嘱することができる.委嘱期間は，9月10日～3月15日とする.
２　補助要員は委員長の指示により,選挙業務（立候補受付,立候補者確認･案内,WebsサイトやNews誌への掲示作業,投票用紙･広報等の印刷，郵送，投票の受取など）に関して,選挙管理委員会をサポートし，円滑に選挙が遂行されるよう協力する．なお，選挙活動に類する行為は厳に慎むものとする.

（附　則）
本規則は2009年6月30日から施行する.

以上

2022 年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会では今年も運営規則第 16 条および各賞選考規則（本号別途掲載）にしたがい，下記の賞の候補者を募集いたします．ご応募いただいた方の中から，各賞選考委員会（委員は理事会の互選と職責により選出）が候補者を選考し，理事会での決定，総会での承認を経て表彰を行います．

論文賞・研究奨励賞の対象論文リストについては，地質学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）をご覧いただくか，または，学会事務局までお問い合わせください．

下記の応募要項をご参照の上，各賞選考委員会（学会事務局）あてに，期日厳守にてご応募下さい．たくさんのご応募をお待ちしております．郵送，e-mail 送信いずれでも受け付けますが，なるべく電子ファイルでの提出をお願いします．なお，ご応募いただいた場合には，必ず受け取りのお返事をお出ししますのでご確認ください．

応募の締め切りは各賞とも，2021 年 12 月 1 日（水）必着です．
所定の様式による，とあるものは事務局にご請求下さい．

送付先：〒 101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル 6 F
一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
TEL：03-5823-1150，e-mail：main@geosociety.jp

1．日本地質学会賞

授賞対象：日本および世界の地質学の発展に大きく寄与する重要な学術的貢献（国内外の学術誌での論文執筆や学会講演・セッション企画などにおいて，本学会の会員の手本となるような功績）を長期にわたって行い，かつ本学会に顕著な貢献のあった正会員および名誉会員．

応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．

2．日本地質学会功績賞（新設）

授賞対象：影響力の大きい教科書の執筆，研究動向を決める新しい研究手法の開発，教育・普及，あるいは本学会運営などを長期にわたって行ない，本学会ならびに日本の地質学の発展に顕著な功績のあった正会員および名誉会員．

応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．

3．日本地質学会国際賞

授賞対象：地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた日本の地質学の発展に関する顕著な功績があった正会員および非会員．

応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．所定の様式による．

4．日本地質学会ナウマン賞（新設）

授賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた，2021 年 9 月末日で満 50 歳未満の正会員．

応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．

5．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞

授賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた，2021 年 9 月末日で満 37 歳以下の正会員（研究テーマによって小澤儀明賞・柵山雅則賞のいずれかを授与）．

応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．

※次年度募集からは小澤儀明賞・柵山雅則賞の対象が「満 37 歳以下」から「博士号取得後 5 年以内」に変更になります．

6．日本地質学会論文賞

授賞対象：2018 年 10 月から 2021 年 9 月までの過去 3 年間に「地質学雑誌」および「Island Arc」に発表された，会員が筆頭の優れた論文．

応募方法：推薦理由書添付（400 字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．

7．日本地質学会小藤文次郎賞

授賞対象：2016 年 10 月から 2021 年 9 月までの過去 5 年間に重要な発見または独創的な発想を含む論文を発表した会員．（※対象論文の発表期間を従来の過去 2 年間から過去 5 年間に延長しました）

応募方法：推薦理由書添付（400 字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．地質学雑誌，Island Arc 誌以外で発表された論文は PDF によるコピーを添付してください．

8．日本地質学会研究奨励賞

授賞対象：2019 年 10 月から 2021 年 9 月までの過去 2 年間に「地質学雑誌」および「Island Arc」に優れた論文を発表した 2021 年 9 月末日で満 35 歳未満の会員．筆頭著者であれば共著でもよい．

応募方法：推薦理由書添付（400 字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．

※次年度募集からは研究奨励賞の対象が「満 35 歳未満」から「満 32 歳未満」に変更になります．

9．日本地質学会地質学雑誌特別賞（新設）

授賞対象：2018 年 10 月から 2021 年 9 月までの過去 3 年間に「地質学雑誌」において，重要な地質記載または有用性の高い新規の研究手法等を発表した，会員が筆頭のレター，ノート，報告，講座．

応募方法：推薦理由書添付（400 字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．

10．日本地質学会表彰

授賞対象：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通じて地質学界に貢献のあった個人，団体および法人．対象者は会員・非会員を問いません．
応募方法:正会員･名誉会員，支部，または専門部会が推薦．所定の様式による．

注）日本地質学会賞・国際賞・小澤儀明賞・柵山雅則賞・研究奨励賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないことが要件となります．

2021 年 9 月

一般社団法人日本地質学会
各賞選考委員会　委員長　西　弘嗣
委員　岩森　光・大藤　茂・尾上哲治・狩野彰宏・川端清司・後藤和久・小宮　剛・竹下　徹・田村芳彦・辻森　樹・中澤　努・野田　篤・早坂康隆・細矢卓志・道林克禎・武藤鉄司・矢部　淳・山路　敦

（関連資料）

一般社団法人日本地質学会各賞選考規則

（目的）
1．本規則は，一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）運営規則第 16 条 3 項に基づき地質学会の各賞選考に関する手続きを定める．

（選考）
2．各賞の選考は，理事会のもとにおかれる各賞選考委員会が行う．各賞選考委員会については別途定める．

（各賞の選考対象および応募方法等）
3．日本地質学会賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象：正会員および名誉会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
2）応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
4．日本地質学会功績賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象：正会員および名誉会員．ただし過去において本賞を受けていない者．
2）応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
5．日本地質学会国際賞の選考対象および応募方法等は次のとおりとする．
1）対象：正会員および非会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
2）応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．所定の様式による．
3）国際賞の授与は毎年度 1 名以内とする．
6．Island Arc Award の選考対象は次のとおりとする．
1）募集開始年の 3 年前と 2 年前に Island Arc 誌に発表された論文．
7．日本地質学会ナウマン賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象:募集開始年の 9 月末日で満 50 歳未満の正会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
2）応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
8．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考対象および応募方法等は次のとおりとする．
1）対象：募集開始年の 9 月末日で博士号取得から 5 年以内の正会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
2）応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
3）賞の名称は，受賞する研究のテーマによって各賞選考委員会が定める．
9．日本地質学会論文賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象：募集開始年 9 月までの過去 3 年間に地質学雑誌および Island Arc に発表された，会員が筆頭の論文．
2）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400 字程度の推薦文を添付すること．
10．日本地質学会小藤文次郎賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象：募集開始年 9 月までの過去 5 年間に重要な発見または独創的な発想を含む論文を発表した会員．
2）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400 字程度の推薦文を添付すること．
11．日本地質学会地質学雑誌特別賞の選考対象および応 募方法は次のとおりとする．
1）対象：募集開始年 9 月までの過去 3 年間に地質学雑誌に発表された，会員が筆頭のレター，ノート，報告，講座．
2）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400 字程度の推薦文を添付すること．
12．日本地質学会研究奨励賞の選考対象および受賞資格，応募方法は次のとおりとする．
1）対象：募集開始年 9 月までの過去 2 年間に地質学雑誌および Island Arc に発表された論文のうち，募集開始年 9 月末日で満 32 才未満の会員が筆頭の論文．
2）受賞資格：筆頭著者および募集開始年 9 月末日で満 32 才未満の共著の会員．ただし，過去において本賞を受けていない者とする．
3）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400 字程度の推薦文を添付すること．
13．日本地質学会優秀ポスター賞の選考対象は次のとおりとする．
1）各賞選考委員会が対象と定めた講演会における，会員が筆頭のポスター発表．
14．日本地質学会ジュニアセッション優秀賞・奨励賞の選考対象は次のとおりとする．
1）ジュニアセッションにおける高校生以下の生徒またはグループによる発表．
15．日本地質学会表彰の選考対象および応募方法は次のとおりとする．
1）対象：会員および非会員の個人，団体または機関．
2）応募方法：正会員，名誉会員，支部または専門部会による推薦，所定の様式による．

（応募に関する告示）
16．各賞の応募に関する告示は，応募締め切り期日の 3 カ月前までに News 誌，Web サイト等で行う．

（選考結果の記録と報告）
17．各賞選考委員会は，選考過程と選考結果について文書で理事会に報告する．

（規則の変更）
18．本規則の変更は理事会の議決による．

附則
・本規則は，2009 年 9 月 3 日から施行する．
・2011 年 4 月 2 日，一部改正．
・2012 年 4 月 7 日，一部改正
・2013 年 5 月 18 日，一部改正
・この改正は，2021 年 7 月 1 日から施行する．ただし，8. に定める日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞，および 12. に定める日本地質学会研究奨励賞に関する規定は，2022 年 7 月 1 日から施行する．施行前の選考は，従前の例による．
・2021 年 4 月 3 日，一部改正

（注）改正した各賞選考規則の小澤・柵山賞，研究奨励賞の条項については，来年から施行となるため，今回選考分として，旧規則の条項（旧規則の 6 と 9）を抜粋して下記に掲載します．

6．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　1）応募資格：募集開始年の 9 月末日で満 37 歳以下の正会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　2）応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
　3）賞の名称は，受賞する研究のテーマによって各賞選考委員会が定める．

9．日本地質学会研究奨励賞の受賞対象および資格者は次のとおりとする．
　1）募集開始年 9 月までの過去 2 年間に地質学雑誌および Island Arc に発表された論文の著者．ただし，過去
　2）において本賞を受けていない者．
　3）募集開始年 9 月末日で満 35 才未満の会員．筆頭著者であれば共著でもよい．
　4）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400 字程度の推薦文を添付すること．

一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会規則

（目的）
1．一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）各賞選考規則第 2 項に基づき，本規則を定める．

（委員の構成および選出）
2．各賞選考委員会（以下選考委員会という）は，理事会が推薦する 10 名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長，Island Arc 前・現編集委員長で構成する．
　1）理事会推薦委員の 10 名は，専門を考慮して理事の互選により選出し，委員長はこの委員間の互選とする．
　2）理事会推薦委員の任期は 2 年とする．

（選考検討委員会等の設置）
3．選考委員会は，日本地質学会賞，日本地質学会功績賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会ナウマン賞，日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞ならびに Island Arc Award の選考に関しては，選考委員会のもとに随時，選考検討委員会を設置して諮問することができる．
4．日本地質学会賞，日本地質学会功績賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会ナウマン賞ならびに日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考を行う選考検討委員会は，前・現地質学会長，および過去の日本地質学会賞受賞者から専門を考慮して執行理事会が推薦する 8 名程度の委員で構成し，必要に応じて執行理事会が推薦する若干名の委員を追加することができる．委員長は委員間の互選とする．
5．日本地質学会 Island Arc Award の選考検討委員会は，現 Island Arc 編集委員長と Editorial Advisory Board のメンバー若干名によって構成し，委員長は委員間の互選とする．
6．選考委員会は，優秀ポスター賞の選考に関して，随時，優秀ポスター賞選考委員を任命し，その意見を選考の参考にすることができる．

（利益相反）
7．選考委員会委員ならびに選考検討委員会委員が受賞候補対象者となった場合，または委員と候補者の関係が深い（親族，共同研究者，研究指導者など）と判断される場合は，地質学会利益相反防止規則に基づいて，該当する賞の選考には一切関与しないこととする．これによって減数した委員の補充は行わない．

附則
・本規則の変更は理事会の議決による．
・本規則は，2009 年 9 月 3 日から施行する．
・2011 年 4 月 2 日，一部改正．
・2020 年 9 月 12 日，一部改正．
・2021 年 4 月 3 日，一部改正．

2022年度日本地質学会の新しい表彰体系：変更の要点について

会長　磯﨑行雄

日本地質学会では，これまでに会員・非会員の表彰を永年行ってきました．しかし，21世紀に入ってはや20年が経過し，現代的な学会動向の観点から眺めた際に，これまでの伝統的な体系だけでは必ずしも十分に表彰しきれていなかった点が見えてきました．そこで，現在の学会執行部のなかで議論し，またその原案について理事会・総会でご紹介・ご承認をいただいて，2020-2021年度に賞体系を大幅に変更しました（上記）．その中では，従来よりも賞の数を増やし，多様な年齢層の会員に対して満遍なく表彰の対象となっていただけるように配慮し，またそのための学会規則の変更を行いました．

しかし，変更箇所が多いにも関わらず，硬い言葉だけで書かれた規則改変だけでは，新たな賞体系の内容，とくに各賞の間の相違について，会員の皆様に十分理解していただけていない可能性があることを危惧します．そこで，以下に，改めて複数の賞の内容整理と相互比較を簡単に，ご説明いたします．

１）学会賞と学会功績賞（新設）：本学会の最高位の表彰として「地質学会賞」が位置付けされています．この選考対象は，あくまで地質学における学術的業績の高さが評価される会員とすることには，従来から何も変更はありません．一方，このたび新設しました「学会功績賞」の対象は，以下の点で「学会賞」のそれとは区別されます．「学会賞」は，既に公表された学術論文の質的高さ（基本的に国際学術誌に発表された論文が，どの程度，世界の学会に積極的な影響を及ぼしたのか）を基に本学会を代表する学術業績をあげた会員を選考します．これに対し，「学会功績賞」は，学術論文のみならず専門書・教科書（英文あるいは和文）の執筆や学会運営等への深い貢献を評価対象の中心におくものです．

２）ナウマン賞（新設）：これまで，賞の対象となる会員の年齢層が，大きく二局化していました．すなわち，学会賞がベテラン会員（基本的に50歳以上）を対象とするのに対して，そのほかの賞はいずれも主に20-30歳代を対象としてきました．すなわち，中堅の中でもやや年齢の高い会員に対する表彰区分が欠落していました．そこで，主に40歳代の会員を対象にした表彰を行うために，新たに著名なEdmund Naumann先生の名前を冠した「ナウマン賞」を創設しました．

３）「小藤文次郎賞」は，設立当初は速報性を持った短報のみを対象にした「小藤賞」という名前で設立されました．しかし，その後，重要な発見または独創的な発想を含む論文，すなわち学界に対するインパクトの高い論文に対して授ける賞として「小藤文次郎賞」が再定義されて，今日に至っています．その審査過程において，これまでは直近２年間に発表された論文だけを対象としてきましたが，地質学分野は他分野（生物学や化学など）とは異なり，論文評価のためには２年は短すぎ，評価が定まるまでには少なくとも５年は必要と判断されます．そこで，今回の改正では，「小藤文次郎賞」審査期間を応募直前の５年間に変更しました．

４）「地質学雑誌特別賞」（新設）は，これまで地質学雑誌に掲載された論説や総説以外の記事を表彰するために新たに用意されました．地質学雑誌には，原著論文および総説の他に，レター，ノート，報告，講座などの比較的短い著作が掲載されます．これらの中には，フルペーパーではないものの，重要な地質記載や有用性の高い研究手法等を提案したものも含まれます．それらについて，新たな賞を設けて表彰することにしました．

５）これまで，地質学研究を側方からサポートされた会員ならびに非会員の方々を対象に「功労賞」，「地質学会表彰」が選ばれてきました．かつては，大学において働かれた技官の方々，新技術の開発に貢献された会社の方々，また最近では中等教育の教科書出版や，テレビの教養番組作成チームなどが受賞対象となりました．このたび，新たに会員対象の「功績賞」を新設したことに伴い，主に非会員を対象とした賞として「地質学会表彰」と一括することにしました．ついては従来の「功労賞」は廃します．

６）若手の育成を目指して，学術大会の際に中高校生達のポスター展示をジュニアセッションとして開催し，優秀な発表の表彰をこれまで非公式に進めてきました．この度それを学会の正式な賞として「ジュニアセッション優秀賞」「ジュニアセッション奨励賞」を用意しました．

なお，今回の規則改正では，既存の「小澤儀明賞」と「柵山雅則賞」の対象年齢を，従来の37歳以下から，博士号取得後５年以内に変更し，さらに「研究奨励賞」の対象年齢も，従来の35歳未満から，32歳未満に変更しました．「小澤賞」「柵山賞」の年齢制限を生物学的年齢から学位取得後５年とした理由は，大学入学時の年齢のばらつきに起因する不平等をなくすことにあり，欧米でもしばしば用いられている基準です．ただし今回の対象年齢の変更により特定の年齢の会員に不利益が生じないよう，移行期間を設けることにしました．したがって上記の対象年齢の変更は，１年遅らせて来年度募集の表彰から適用することにします．

以上の賞体系の変更の意図は，あくまで多様な会員層に対して満遍なく表彰対象となっていただくためです．この度の変更が，多数の会員にとって，さらに地質学研究を推進するブースターになることを大いに期待しております．こぞってご応募いただければ幸いです．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

2022年度 笹川科学研究助成募集

【学術研究部門】
・大学院生等（修士課程・博士課程）
・35歳以下の任期付き雇用の若手研究者
・ただし,「海に関係する研究」は重点テーマとして支援し，雇用形態は問わない.
・助成額は，1件100万円を限度とする

【実践研究部門】
・学校・NPO職員等に所属している方
・博物館，図書館等の生涯学習施設に所属している学芸員・司書等
・年齢，雇用形態は問わない.
・助成額は，1件50万円を限度とする

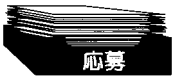
申請期間：申請期間：2021年 9月15日（水）から10月15日（金）23：59 まで
申請方法：Webからの申請となります．詳細は本会Webサイトをご確認下さい.
https://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/
問い合わせ先：
公益財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成係
TEL：03-6229-5365
URL：https://www.jss.or.jp
E-mail：josei@jss.or.jp

山田科学振興財団 2022年度海外研究援助

趣旨：若手・中堅研究者が海外の大学や研究機関等に一定期間（１か月～１年間）滞在して基礎自然科学を主題とする共同研究を実施するために必要な経費を助成し，これによって新しい研究の方向性を見つけた研究者とその研究に興味を持つ海外研究機関等との国際交流を活発化することを目指します.
また，個人の研究だけではなく，グループで行う研究も援助の対象とするとともに，多様な視点や発想を取り入れ，研究活動を活性化し，想像力を発揮する研究者を積極的に支援するため，当財団は，女性の活躍と多様性を尊重します.
※2022年4月1日～2023年3月31日に出発予定の方を対象とします.
金額：100万円まで（個人）200万円まで（グループ）
応募締切日：2021年10月31日（日）
学会推薦：不要
※今回から，弊財団HPの応募フォームに必要書類を添付していただくことにより，郵送応募は不要とさせていただきました.
問い合わせ先：
公益財団法人　山田科学振興財団
事務局　応募担当
〒544-8666　大阪市生野区巽西1-8-1
ロート製薬株式会社本社内
Phone: 06-6758-3745
Fax: 06-6758-4811
E-mail: apply@yamadazaidan.jp
URL：https://yamadazaidan.jp/jigyo/kaigai.html

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.



名古屋大学大学院環境学研究科・准教授公募

所属：地球環境科学専攻地球惑星科学系
職務内容：当系では，地質・地球生物学，地球化学，地球惑星物理学，生態学の研究分野により，地球環境の過去・現在・未来の状態とその変動メカニズムを解明するとともに，地球環境システム学の研究分野により，環境問題や自然災害等の地球規模課題の解決に資する研究を行い，これらの研究を国際的に推進できる人材育成を進めています．さらに，当系の将来像として各研究分野間の連携を強化し，それらの成果を融合させることによる地球惑星科学および環境学への貢献を目指しています．本人事においては，当系のいずれか一つ以上の研究分野と連携し，地球生物学を含む地質学的手法または生態学的手法を用いて教育・研究に貢献できる人材を公募します．さらに講座が行っている大学院および理学部地球惑星科学科の研究および教育（実験・実習等を含む）に意欲的に取り組む人材を求めます.
勤務地：愛知県名古屋市千種区
募集人員：准教授・1名
着任時期：2022年3月1日以降のできるだけ早い時期
専門分野：地球惑星科学，基礎生物学
応募資格
・博士の学位を有すること.
・地球生物学を含む地質学または生態学の研究分野において優れた研究実績を持つこと.
・当研究科の中長期ビジョンである地球規模課題への対応と新たな知の創造に貢献する研究を行えること.
・大学院および学部の教育（実験・野外実習等を含む）を行えること.
・教育・研究指導を日本語で行える能力を持つこと．ただし，応募した時点でその能力がなければ5年程度でそのレベルに達すること.
応募期間：2021年9月2日～2021年10月29日
問い合わせ先：
名古屋大学大学院環境学研究科 日高 洋
電話:052-789-3829
e-mail: apply-junkyoju@eps.nagoya-u.ac.jp
応募賞類等公募の詳細は，下記を参照してください.
http://www.env.nagoya-u.ac.jp/jobs/index.html

横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境と情報部門准教授または講師公募

［分野］地球惑星科学およびその関連分野（特に，気候変動，地球惑星システム変動，地球生命圏変動に関連する分野）

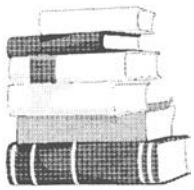
［領域］気候変動や地球惑星システム変動などの仕組みに関してフィールド調査・ビッグデータ解析などを駆使する気候変動科学，地球生命圏科学．環境リスク共生の視点から分野横断的な新しい研究教育にも積極的に取り組むことに強い熱意を有する人材を求めます.

採用日：2022年4月1日 またはこれ以降のできるだけ早い時期

任期：応募時の研究業績により，テニュア同時審査による任期なし（テニュア）の准教授として採用，又は５年任期テニュアトラックの講師として採用します．５年任期テニュアトラックの講師の場合，任期中の研究・教育実績により，任期なし（テニュア）の准教授への昇任審査を検討します．テニュア採用の場合，定年は65歳．試用期間あり（6カ月とする）.

応募締切：2021年10月20日（水）

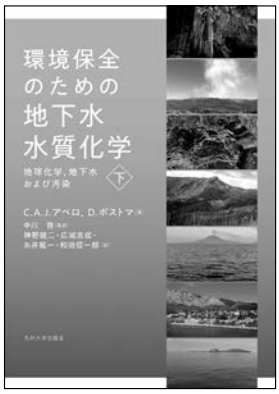
詳細は下記URLを参照してください.
https://www.ynu.ac.jp/hus/envk/26823/detail.html



紹　介

環境保全のための地下水水質化学
-地球化学，地下水および汚染-

中川　啓（監訳），
神野健二，糸井龍一，和田信一郎　訳



原本：Geochemistry, groundwater and pollution 2nd. Edition.
九州大学出版会，2012年5月15日発行，
B5判，上巻345ページ，下巻336ページ，
ISBN：（上巻）978-4-7985-0307-3,
（下巻）978-4-7985-0308-0

本書は，C.A.J. Appelo，D. Postma著“Geochemistry, groundwater and pollution”の第2版を翻訳したものである．タイトルからも分かるように，「環境保全」，「地下水水質化学」，「地球化学」，「地下水汚染」に関わる内容を取り扱っている．環境・汚染問題は，最近では築地市場の移転先としての豊洲がクローズアップされたが，社会生活に直接かかわる事案が多いことから，しばしば取り上げられてきた重要な問題である．

さて，本書の原著者の二人のバックグラウンドであるが，Appelo氏は水文地質学，Postma氏は堆積学を専攻し，その後，土壌・地下水汚染に関わる環境問題について現場や実験室で研究する手法などを開発してきた．この分野では，地盤中の汚染の原因や実態が注目されがちであるが，汚染物質を移行させる地下水や，地下水や汚染物質が流れる「器」としての地質の理解が本質的に重要である．地質学を専攻した著者らが執筆している意味は大きい．言い訳ではないが，私の専門は本書の専門分野（地下水水質化学）からは厳密には外れていることもあり，原著の存在は知らなかったのだが，この分野の専門家の間では著名なテキストである．このような海外の名著と言われるテキストは，通常，専門家は原著のまま利用し，学生は輪読書として利用することが多く，本来，翻訳する必要性については疑問視されることが少なくない．事実，本書下巻の「監訳者あとがき」では，『「この書籍を読むような人は，翻訳したものがなくても自分で読むだろう」という意見があり，このハードルを越すことが出来ず，出版に時間がかかった』旨が記されている．しかしながら，実際は，このような名著が翻訳されていることで，初学者はもちろんのこと，実際に現場で地下水や汚染問題を扱う技術者にとっても非常に有益である．

本書は上巻，下巻の2部構成で，以下のような目次となっている．

【上巻】
1章：地下水地球化学への入門／2章：雨水から地下水になるまで／3章：流れと輸送／4章：鉱物と水／5章：炭酸塩と二酸化炭素／6章：イオン交換

【下巻】
7章：微量元素の吸着／8章：ケイ酸塩の風化／9章：酸化還元過程／10章：有機化学物質汚染／11章：数値計算モデリング

この構成からも分かるように，本書は，地下水地球化学の基本的な事項（第1章，2章），帯水層における物質輸送現象（第3章）に続き，第4章以降はほとんど全てが地下水の反応輸送現象を扱っており，ここが本書の主体となっている．

私は担当授業で本書の第3章に関わる地下水の移動と物質移行現象（移流，拡散，分散，収着）について授業で扱っていることからまず目を通したが，本書はこの部分について，基礎的事項から発展的な内容について分かりやすく記述されている．例えば，「遅延」に関して見ると，遅延という現象の解説が図を交えて記述されており，その後の遅延方程式の解説には式の展開について何故そのように展開されるのかについてグラフや問題も織り交ぜながら説明されている．読み始めると，まるで授業を聞いているかのように吸い込まれて読んでしまうのである．何故だろうか？他の翻訳本と比べてみて明らかに異なるのは，語り口調で書かれているところである．これに加えて写真や概念図が多用されていることで「吸い込まれていく」のである．この語り口調は翻訳者のセンスではないかと思う．また，ページの途中から読み始めても問題なく読み進められるよう配慮されている．まさに，初学者がしっかりと基礎から応用を学ぶ上で最適の翻訳本である．また，ベテラン研究者が基礎的事項を確認するときにも有用であろう．

第4章以降では，地下水の反応輸送現象の解析にしばしば用いられる化学平衡計算コードであり，原著者のPostmaも開発者の一人であるPHREEQCを用いた例題や演習問題が取り上げられている．例題においては，PHREEQCのコードの入力ファイルの作り方が具体的に記載されているため，読者はこれをテンプレートとして類似の事例を計算することができる．これが日本語で解説されていることは，初学者や現場の技術者などにとってありがたい存在であると思う．ただし，入力ファイルを作ることができれば計算はコンピュータにお任せとなってしまうので，反応の理論や計算過程の詳細（どのような順序で何を計算するのか）は本書で理解しておくことが肝要である．

また，本書では原著に添付されている正誤表の内容も反映されている．その他，翻訳の過程で発見された誤りも修正されているとのことである．さらに原著におけるWEBアドレスのリンク切れも修正されている．またPHREEQC以外の解析コードの紹介もされている．翻訳本でありながら，原著を超えた完成度と言えよう．

本書の翻訳は監訳者の中川氏が学生の時代から手掛けてきたもので，誤訳や用語の統一などを行い，内容の査読も経て，何度も見直しを行った翻訳本として仕上げられている．さらに，本書の完成直前に中川氏の恩師であり，本書の和訳者の一人でもある神野健二先生が完成を待たずに逝去された．そのようなタイミングを想像するに，本書は様々な想いをのせた渾身の翻訳書とみることもできる．そのような想いも感じながら活用してみてはいかがだろうか．

（**竹内真司**）

CALENDAR

2021.10〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2021年

10月　October

第31回 地質汚染調査浄化技術研修会
10月1日（金）18:30-20:30
内容：地質汚染調査・土壌汚染状況調査概論
講師：駒井 武（東北大学大学院教授）
受講方法：ZOOMによるオンライン
受講料無料
http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm

★日本地質学会第5回ショートコース
10月3日（日）
・9:00-12:00　応用地質学への招待：私の現場から＋α：永田秀尚（有限会社風水土）
・13:30-16:30　GISとWebGISによるデジタル地質情報の利活用：宝田晋治（産総研・地質調査総合センター）
http://www.geosociety.jp/science/content0137.html

（後）藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立40周年記念公開シンポジウム
「海と地球の自然史－変わりゆく海洋環境から海洋プラスックごみまで地球の問題を考える－」
10月24日（日）13:00〜17:00（予定）
形式：オンラインと会場のハイブリッド開催
場所：仙台国際センター
https://40th.fujiwara-nh.or.jp/

2021年度 第2回地質調査研修
10月25日（月）-29日（金）
場所：島根県出雲市長尾鼻周辺（小伊津海岸）
研修内容：室内で岩石の見方等を理解した上で，野外での地層・岩石の観察ポイントからまとめまで，地質図を作成するための基本的事項を5日間の研修で習得します．
定員：６名（定員になり次第締切），CPD：40単位
主催：産総研コンソーシアム「地質人材育成コンソーシアム」
https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2021-2.html

11月　November

（後）第31回社会地質学シンポジウム
11月26日（金）・27日（土）
開催方式：WEB開催（Zoomミーティング）
https://www.jspmug.org/

12月　December

地質学史懇話会［オンラインと対面のハイブリッド］
12月19日（日）13:30-16:30
場所：早稲田奉仕園（東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分）
青木滋之「ダーウィンと科学哲学　―同時代、現代の視点から―」
加藤碩一「菜食主義とライマン・宮沢賢治余聞」
連絡先：矢島道子pxi02070@nifty.com

海と地球のシンポジウム2021
12月20日（月）-21日（火）
主催：AORI・JAMSTEC
開催方法：実会場とオンライン会場を使ったハイブリッド形式
※感染症の状況により変更・中止する場合があります．
https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2021/

2022年

3月　March

第27回日本災害医学会総会・学術集会
3月3日（木）-5日（土）
会場：広島国際会議場・広島市文化交流会館ほか
テーマ：災害医療のパラダイムシフトー何を攻め・守り・育てるのかー
https://site2.convention.co.jp/27jadm/

7月　July

（共）岩石―水相互作用国際会議（WRI-17）
7月30日（土）より
会場：仙台市
https://www.wri17.com/

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

表紙紹介

第12回惑星地球フォトコンテスト：入選
「カルスト台地」

写真：**百崎礼治**（福岡県）

撮影場所：福岡県　北九州市小倉南区平尾台国定公園

撮影者より：かつてサンゴ礁であったこの場所が地殻変動により隆起，石灰岩の大地となります．その後雨水による侵食で現在のカルスト台地を形成．日頃草で覆われ隠れているカルスト台地も，野焼きの後は，白い岩々が存在を主張しています．

審査委員長講評：福岡県の平尾台は山口県の秋吉台，四国カルストと並んで日本を代表するカルスト台地です．この作品は，溶食で残った石灰岩柱を野焼き直後に望遠レンズで切り取ったもの．このような地形が墓石地形とも呼ばれる理由がわかります．天地を切って余分なものを入れないのが良かった．（白尾元理）

地質的背景：平尾台は秋吉台と同時期（石炭紀〜ペルム紀）の海山上に形成したサンゴ礁が付加したもので，九州最大のカルスト地形です．秋吉台と異なるのは，白亜紀頃の花崗岩や塩基性貫入岩による熱変成により結晶質石灰岩に変化しており，化石などはほとんど報告がありません．平尾台には4-5カ所一般の人が立ち入るこのできる洞窟もあり，その横には，日本で3番目に大きな石灰岩鉱山（三菱マテリアルなど）があります．（清川昌一：九州大学）
（参考）清原正人，1968，地質調査月報，19巻7号，471-480．https://www.gsj.jp/data/bull-gsj/19-07_02.pdf

日本古生物学会2021年年会（オンライン）参加報告

河野秀晴
九州大学大学院・地球惑星科学専攻・博士課程1年

はじめに

日本古生物学会は，古生物学およびそれに関連する学問分野の発展・拡大を目的として1935年（昭和10年）に設立された組織であり，年に2回の学術大会（1～2月頃に例会，6～7月頃に年会）を開催している。2021年の年会は，7月2日～4日の3日間にわたり，岡山理科大学を主催校としてオンラインで開催された．本稿では，本年会にて行われたシンポジウム，懇親会，口頭発表，ランチョン小集会，ポスターセッション，普及講演会，恐竜学博物館ツアーの内容について報告する．

シンポジウム

初日のシンポジウム「モンゴル恐竜研究最前線―高精度年代層序の確立と白亜紀化石動物相の解明をめざして―」では，Khishigjav Tsogtbaatar博士（モンゴル科学アカデミー古生物学研究所），高橋亮雄准教授・青木一勝准教授・實吉玄貴准教授（岡山理科大学），小林快次教授（北海道大学）によって，恐竜類を中心とした脊椎動物化石やモンゴル化石含有層の絶対年代に関する最新の研究成果についての発表が行われた．これらの中でも，青木一勝准教授によるモンゴル化石含有層の絶対年代についての発表が興味深かった．モンゴル国ゴビ砂漠に分布する白亜系からは，恐竜類をはじめとする多数の脊椎動物化石が産出する．一方，これらの化石を含有する地層は年代決定に有効な火山灰を狭在しないことから，その絶対年代を制約することが困難であった．そのため本課題は，広域での詳細な地層対比，北米をはじめとする他地域との間の恐竜類の移動や進化，生物種多様性の変遷などの解明に対して大きな障害となっている現状がある．そこで岡山理科大学とモンゴル科学アカデミー古生物学研究所を主体とした国際研究グループは，ゴビ砂漠東部のKhongil Tsav地域Bayn Shire層から産出するカリーチ（土壌性炭酸塩岩，別名カルクリート）中のカルサイト（炭酸カルシウム）のU-Pb年代測定を試み以下のことを明らかにした．(1) カリーチの形成年代は約1億～9000万年前頃であること．(2) 分析によって得られた年代値は，同層準の産出化石などから推定されているBayn Shire層の堆積年代（約1億年～8350万年前）と調和的であること．このことから，本研究はモンゴル国ゴビ砂漠の白亜系の年代に具体的な数字をもたらし，カリーチを用いたカルサイトU-Pb年代測定がモンゴル国の化石含有層の絶対年代決定に対して有効であることを世界で初めて実証した例（Kurumada et al., 2020）となった．カリーチは，モンゴル国ゴビ砂漠の白亜系にほぼ普遍的に含まれていることから，さらなる化石含有層の絶対年代制約や地層対比が可能になると予想される．これから本研究をきっかけに，モンゴル国と異大陸との間の恐竜類の移動や進化，生物種多様性の変遷などが解明されることに期待したい．

懇親会

シンポジウム終了後のZOOMを用いた懇親会には総勢約70名の方が参加した．はじめの挨拶として，石垣忍博士（岡山理科大学恐竜学博物館・館長）より本年会の主催校がある岡山県についてのユーモアのある解説と，岡山と恐竜が関連づけられた経緯（内容については後述の「普及講演会」を参照されたい）などについて紹介していただいた．乾杯後，約1時間は一つのブレイクアウトルームにて3～5人での歓談，その後は他のブレイクアウトルームに自由に行き来しての歓談を楽しむという型式だった．当初に予定されていた終了時刻は20時だったが，学会行事係の粋な計らいによってブレイクアウトルームが終了後も開けられたため，参加者の中には日付を超えて交流を楽しむ者もいたそうだ．オンライン型式の懇親会だったが，教員，学芸員，学生を問わず一堂に会し，各々研究の話で盛り上がったことは想像に難くない．

口頭発表

本年会の2日目から一般講演の口頭発表が開始した．A会場では古脊椎動物について全23件の発表，B会場では古生態・形態解析・分類・古環境・古植物について全22件の発表が行われた．これらの中で印象深かった発表は，高崎竜司研究員（岡山理科大学）による「白亜紀最末期の北阿万層から産出した新たな基盤的ハドロサウルス科の恐竜がもたらすハドロサウルス科の起源に関する新知見」だ．本研究（Kobayashi et al., 2021）は，メディア等で大々的に取り上げられていたため，本年会の発表の中で最も注目を浴びたかもしれない．北海道大学と兵庫県立人と自然の博物館，岡山理科大学を含めた研究グループは，2004年に兵庫県淡路島の洲本市に分布する白亜系和泉層群北阿万層（約7200万年前）から産出したハドロサウルス科の恐竜（吻部に長く平たいカモのようなクチバシを持つ植物食恐竜）を詳細に解析した．その結果，他のハドロサウルス科には見られない2つの形質を持つことが判明した．それは，(1) 下顎中央部における歯列の機能歯が1本しかないこと，(2) 歯の咬合面に分岐稜線が存在しないことだ．加えて，固有な形質の組み合わせ（後方に向かって緩やかに広がる歯骨の結合面と歯骨の側面，大きく腹側に面し上角骨）を持つことも判明した．これらのことから，本恐竜は新属新種であると結論づけられ，「*Yamatosaurus izanagii*（ヤマトサウルス　イザナギイ：伊弉諾の倭竜という意味）」と命名された．体長は約7～8メートル，体重は約4～5トンと推定されている．さらに，*Yamatosaurus* が他の恐竜とどのような関係にあるかを明らかにするために，

写真1：モンゴル国ゴビ砂漠での岡山理科大―モンゴル古生物学研究所共同調査隊の発掘風景．両国の隊員が協力してハドロサウルス類の幼体化石を取り上げている．2017年8月．
（写真：岡山理科大―モンゴル共同調査隊提供）

写真2：岡山理科大学恐竜学博物館のツアーで用いられたスライド．

写真3：石垣忍恐竜学博物館館長による同館の標本の解説が中継された（中央はタルボサウルスの頭骨）

354の形質と70種の他のハドロサウルス科を基に系統解析を行ったところ，本種はハドロサウルス科の中でも基盤的であることが判明したようだ．

ランチョン小集会：古生物学若手のための会主催「求む！新たな交流会」

本年会の2日目，一般公演の口頭発表が終わった後，古生物学若手のための会（参照：youngpaleo2018.wixsite.com）の幹事メンバーである新山颯大氏（金沢大学），今井拓哉助教（福井県立大学・恐竜学研究所），大山望氏（九州大学）によってランチョン小集会が開催された．本小集会は，昨今のコロナ情勢を鑑みた新たな交流会の形（開催型式やテーマ内容など）について，若手研究者や学生の間で意見交換することを目的としていた．実際，参加者約50名の中から，オンライン交流の利点・欠点，参加人数，開催時期などに対する様々な意見が寄せられ，盛んな討議が絶え間なく重ねられていた．若手のための会は，これまでYouTube配信やゼミを企画し，学年・所属・立場・研究分野を超えた活気ある交流に力を注いできていた．本小集会を通して，本会が目標に掲げている「古生物学分野全体の活性化」により一層邁進する姿勢が窺えた．今後，新規の型式・内容になった交流会が開催されることが待ち遠しい．

ポスターセッション

本年会の一般公演のポスター発表は全39件あり，それらは古生物学会で初のオンライン型式で行われた．ブレイクアウトルームとして分けられた発表会場では，演者と参加者が慣れない型式に戸惑いつつも活発な議論を重ねていた．本セッションにて，筆者は白亜系蝦夷層群から産出するアンモノイド類（イカ・タコの仲間）である*Gaudryceras*属の殻表面に保存された黒色殻皮についての発表を行った．日本古生物学会においては，今回が初めての筆頭演者としての発表となった．アンモノイド類を専門とする研究者，専門外の研究者との議論の中で，これまで学内のゼミなどでは出ることがなかった質問が挙げられ，回答に詰まってしまうことがあった．しかし，今後の研究に対して有益なコメントを頂き，大きな収穫となった．

本セッションで個人的に印象深かった講演は，石川牧子教授（ヤマザキ動物看護大学）による三畳系から産出したアンモノイド類の色素化合物についての研究だ．本講演によると，ラマン分光法を用いてアンモノイド類の殻表面に残存する色帯を分析した結果，色素化合物は熱変性を受けていたことが示唆されたようだ．筆者も自身の研究で，白亜系産の個体に同手法を適用し色素化合物の同定を試みたが，結果は芳しくなかった．このことから，アンモノイド類の色素化合物の同定および生存時の色彩復元は，今後の課題として残りそうだ．

数多くある発表の中から，ポスター賞を受賞したのは筆者と同じ学生の3人だった．筆者よりも完成度の高い研究を行っているという事実を突きつけられたことは，これから研究を行っていく上での大きな刺激となった．

普及講演会

本年会の最終日，石垣忍博士によって普及講演会「モンゴルと岡山の絆が育んだ恐竜共同研究」が行われた．本講演では，岡山県で恐竜研究が始まった経緯，モンゴル国での発掘調査の様子などについての講演があった．岡山県での恐竜研究は以下の過程を経て始まったようだ．（1）故・石井健一博士（フズリナの専門家・日本古生物学会名誉会員）と石垣氏を含む若手古生物学者が古生物学博物館の構想を作成．（2）日本と世界の博物館調査，博物館スポンサーの探索．（3）岡山県のバイオ企業「林原」が同社のメセナ事業の一環として受入．（4）林原自然科学博物館準備室の発足，モンゴル国ゴビ砂漠での共同予備調査実施．（5）林原―モンゴル共同古生物学調査隊の発足と継続（2010年まで）．（6）林原の研究活動を岡山理科大学へ承継，および同大学とモンゴルの共同調査の発足（2015年～現在）．文字に書き起こすと僅かな歴史のように思われるかもしれないが，このような過程の中には様々な曲折浮沈があったと述べられていた．モンゴル国との共同発掘調査（写真1）は今日に至るまで毎年のように行われ，1回の調査では1～3ヶ月も現地に滞在するそうだ．林原―モンゴル隊の成果としては，プロトケラトプスの幼体15個体の巣化石，タルボサウルスの幼体，ゴビハドロスやノミンジアなどの新種恐竜を含む70トン以上の化石を採取したこと，岡山理科大―モンゴル隊の成果としては，世界最大級の竜脚類の足跡化石，モンゴル最大級の竜脚類骨格化石，白亜紀中頃のマイクロサイトの発見などが紹介されていた．

恐竜学博物館ツアー

最終プログラムとして，岡山理科大学に併設されている恐竜学博物館のツアーが，石垣忍博士：解説係，林昭次講師（岡山理科大学）：撮影係によって行われた（写真2）．本館は，岡山県を中心とした地域の自然科学の教育・普及に貢献することを目的として2018年に設立され，恐竜類をはじめとする骨格標本，モンゴル・ゴビ砂漠での発掘調査に関する写真，発掘に使用される道具などを展示している．石垣忍博士には，これらを含めた全ての展示について，非常に丁寧に解説していただいた．中でも印象に残っているのは，メイン展示室のタルボサウルス（写真3）とプロトケラトプスの成長段階を追った展示だ．前者の展示に関しては，幼体および成体の頭骨や大腿骨を見学し，その構造と成長過程について見て取れた．後者の展示に関しては，幼体の産状化石，成体の穴が空いた骨格・埋没姿勢を見学し，その生態と化石成因について見て取れた．メイン展示室に隣接する化石処理室では，学生が化石のクリーニング作業やCTを用いた動物標本の内部構造観察を行っていた．実際の研究風景を拝見できたことは，化石処理を行った経験がない方や古生物学を専門にしていない方にとって，貴重な機会になったのではないだろうか．ツアー終了後，質疑応答が行われた．参加者約160名の中から，産地によって恐竜化石の色の差異が生じる要因について，モンゴル国ゴビ砂漠の地層の硬さについてなど，十数件の質問が寄せられていた．これらの中には小学生のものと思われる質問もあったことから，改めて恐竜の高い人気性が感じられた．これから本館の展示を見学した若い世代の人の中から，恐竜研究を志す人が生まれることを切に願っている．

総括・謝辞

これまで日本古生物学会への参加・聴講の経験はあったものの，本会で筆頭演者として初めての発表を経験した．その中で，自身の勉強不足，今後の研究課題が多いことを改めて痛感した．今後は研究がより完成度の高いものになるように精進していきたいと思った．古生物学若手のための会の交流会については，当面の間，オンライン開催が予想されるが新規の活動が行われることに期待したい．最後に，新型コロナウイルスの影響で様々な紆余曲折があったと思われる中，岡山理科大学での年会開催に尽力してくださった年会開催実行委員会の石垣忍博士，高橋亮雄准教授，實吉玄貴准教授，林昭次講師，千葉謙太郎講師，並びに学生の方々，また，古生物学若手のための会の小集会を企画していただいた新山颯大氏，今井拓哉助教，大山望氏には大変お世話になり，実りある機会を頂戴した．この場を借りて皆様に深く感謝申し上げる．

引用文献

・Kurumada, Y., et al., 2020. Calcite U-Pb age of the Cretaceous Vertebrate-bearing Bayn Shire Formation in the Eastern Gobi Desert of Mongolia: Usefulness of caliche for age determination. Terra Nova, 32, 246-252.
・Kobayashi, Y., et al., 2021. A new basal hadrosaurid (Dinosauria: Ornithischia) from the latest Cretaceous Kitaama Formation in Japan implies the origin of hadrosaurids. Sci. Rep., 11, 8547.

常時投稿をお待ちしています．編集は，現在以下の4名で行っています．原稿は1500～5000文字程度，図・写真3点以内を目安に，e-mailでお送りください．

716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）
a.sakuma@eps.s.u-tokyo.ac.jp　佐久間杏樹（東京大）
dkuwano@chiba-u.jp　桑野太輔（千葉大）
90rymenjpgr@gmail.com　時永万音（新潟大）

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう
この教材は、平成29年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて、一般社団法人日本地質学会が作成したものです。

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
TEL：03-5823-1150　問合せ：main@geosociety.jp

※非営利目的の青少年教育活動で使用する場合にはご連絡ください。

入 会 の ご 案 内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．

入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会

送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会

ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ

会費(※1)年額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)

※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．

※2:学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教員の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正会員　(☐ 学部学生割引 ・ ☐ 院生割引)
氏名(ふりがな)　Name in Japanese	ローマ字表記 family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex:☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:

_____学校 High school_____年卒業 Year completed

_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み) Year completed

修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み) Year completed

博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み) Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　-　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　-　)

※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone:　ファックス Fax:

e-mail Address:　@

※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．

※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください．

連絡先 Correspondence:　☐ 自宅 Home　☐ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)

☐ 所属先住所　☐所属先電話・FAX番号　☐自宅住所　☐自宅電話・FAX番号　☐e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印

Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき，学会費の割引申請をいたします．

上記本学の学生につき，　☐ **学部学生** ・ ☐ **定収のない院生(研究生)**〔いずれかにチェックをつけてください〕

であることを証明いたします．

指導教員　所属:　氏名:　印

専門部会:現在，下記の15の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質
10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩　8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質　15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学
18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質　22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学
26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育　29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います．

＊受付(　年　月　日)	＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)	＊送本(　巻　号)

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日　日本地質学会総会制定
2009 年 12 月 5 日　一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定．

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp